はじめに

この 10 数年の間に、大学と社会、とりわけ地域社会との関係に、大きな構造的な変化が起こった。単純化していえば、これまで市民、住民にとって「一段高く、一歩はなれた」存在であった大学が、きわめて身近な、日常的な生活の一部に組みこまれた存在になりはじめたのである。そこには、生活水準の向上、生活構造の変化、高学歴化の進展、情報化やグローバル化の展開など、さまざまな要因が複雑にからみあっている。

いったい、今大学と地域社会との関係にどのような変化が生じているのか、それは大学と地域社会の双方にとって、どのような意味を持っているのか—私たちは、地域社会研究所の助成を受けて、この3年間、新潟県をフィールドにその実態を明らかにするために、一連の調査、研究を進めてきた。本報告書はその研究成果を集約したものである。

調査研究の詳細は本文に譲るとして、この3年間、新潟県内の国立 3 校、私立 8 校の 4 年生大学すべてを訪問調査し、さらに全教員を対象にアンケート調査を実施してきた。また唯一の総合大学である新潟大学については、県内の有識者、リーダー層を対象に、地域との交流についての認識や意識、期待などを明らかにするためのアンケート調査を行なった。

この他、新潟県や新潟市、長岡市など、大学設置地域の自治体の関係者、それに新潟日報社などに対するヒアリングを実施した。快くご協力くださった方々に、心より感謝の意をあらわしたい。

なお、本調査研究の一部は、文部省科学研究費（基盤研究A、平成 9～11 年度）による、7国立大学を対象とした共同研究と重なっている。これは科学研究費による調査が、新潟大学を調査対象の一つとして含んでいるためであり、新潟県をフィールドとする本研究は、その共同研究の一部、事例研究としての意味ももっている。

最後になったが、研究費を助成してくださった地域社会研究所に心よりお礼を申しのべたい。

平成１２年６月２０日

研究代表者　天　野　郁　夫

研究グループ

研究代表者　天 野 郁 夫（国立学校財務センター研究部教授）

共同研究者　小 林 雅 之（東京大学大学総合教育研究センター助教授）

藤 村 正 司（新潟大学教育人間科学部助教授）

吉　田　文（メディア教育開発センター研究開発部助教授）

溝上 智恵子（長岡技術科学大学助教授）

冨 江 英 俊（東京大学大学院教育学研究科・日本学術振興会特別研究員）